

おかやマママ安心サポート事業の 概要について



令和 6 年 9 月 2 7 日開催

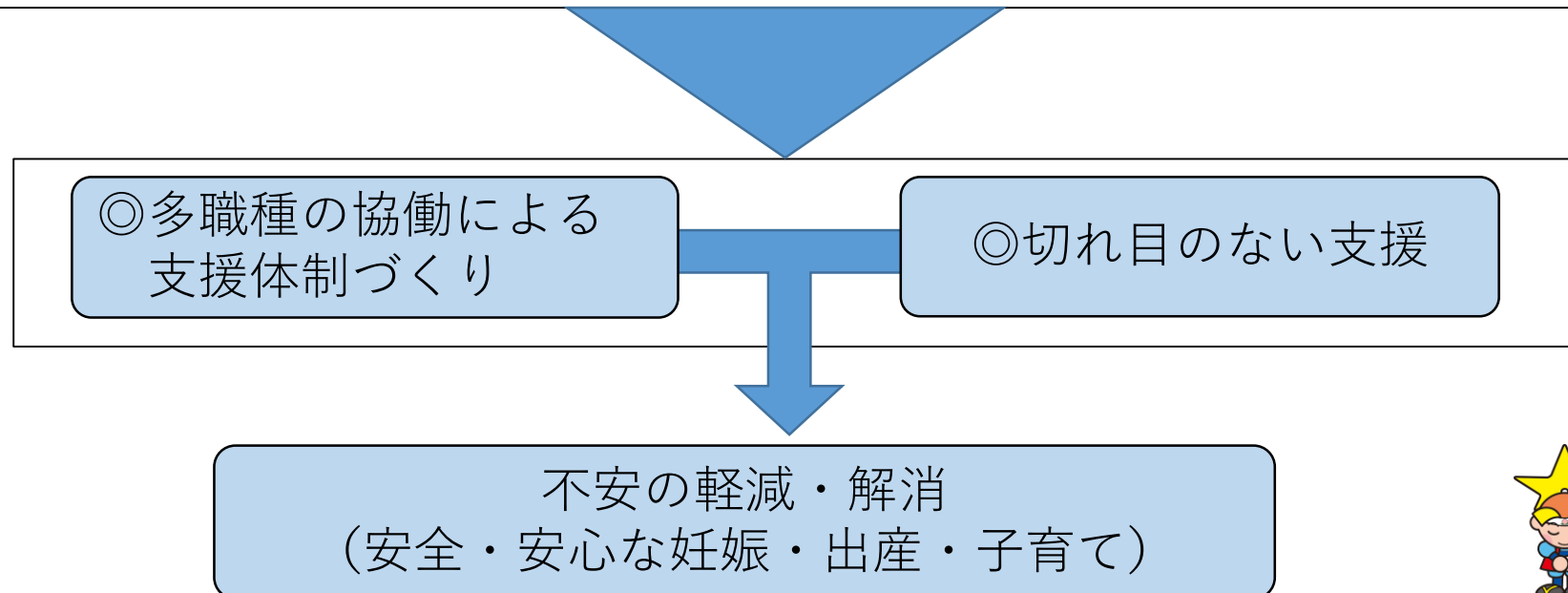
我々が果たすべき役割（目指すもの）について

【背景】

本県の令和4(2022)年の合計特殊出生率が1.39で減少傾向が続く中、周産期・小児医療においては、少子化による医師の地域偏在や産科医療機関の相次ぐ閉院に加え、令和6年4月からの医師の働き方改革に伴う影響もあり、安心して妊娠・出産するために不可欠な医療提供体制に重大な懸念が生じている。

【果たすべき役割】

「これから子どもが欲しいと思う人」、「妊産婦」、「子育て中の人」が、住み慣れた地域で、安心して妊娠・出産・子育てができると思える環境を整えること。



本県を取り巻く現状等の整理について

【現状】

○産科医の高齢化等により、閉院や分娩取扱をやめる医療機関が生じている。
⇒住み慣れた地域の分娩取扱施設がなくなり、さらに減少する恐れがある。

○分娩できる施設が身近にない地域では、遠方や県外の分娩取扱施設を利用している。
⇒分娩取扱施設までの距離が遠くなることで、長距離移動による妊婦の体への負担に加え、急な体調不良や急変時に対する不安感が増している。
⇒交通費などの費用面の負担が生じている。

○ハイリスク妊産婦、医療的ケア児など、医療と福祉の連携による両面からのサポートが十分でない。

○心身のケアや育児のサポート等を行う産後ケア事業について、国が令和5年度から、対象者を産後に心身の不調がある者等に限らず、支援を必要とする全ての産婦へ拡大したことに伴い、利用需要が増加している。

○休日夜間の小児救急に対応できる医療機関に限られる中、軽症者を含めた患者の集中により、小児救急医療の現場がひっ迫している。

【方向性】

・持続的な周産期医療提供体制のあり方の検討

・近くの医療機関等で妊婦健診を受けられる体制等の検討

・遠方の分娩取扱施設までの交通費・宿泊費等の補助の検討

・母子が安心できる切れ目のない支援体制を強化

・県内産婦のニーズ、産科医療機関等の受け入れ体制、市町村の実施状況等の実態把握

・産後ケア事業の実態調査・分析・課題の解決

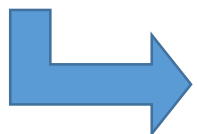
・適正な小児救急医療のかかり方や、小児救急電話相談（＃8000）の活用促進

・保護者への応急処置等の基礎知識普及等を通じた家庭看護力の向上・醸成

現在の各協議会における協議体制

構成員（区分）	岡山県周産期 医療協議会	岡山県小児 医療協議会	岡山県小児 保健協会	岡山県子ども・ 子育て会議	岡山県自立支援 協議会（医療的 ケア児等支援部会）
医師（産婦人科）	○	○			
医師（小児科）	○	○	○		○
助産師	○		○		
福祉関係者			○	○	○
行政担当者（保健・医療）	○	○	○	○	○
行政担当者（福祉）			○	○	○

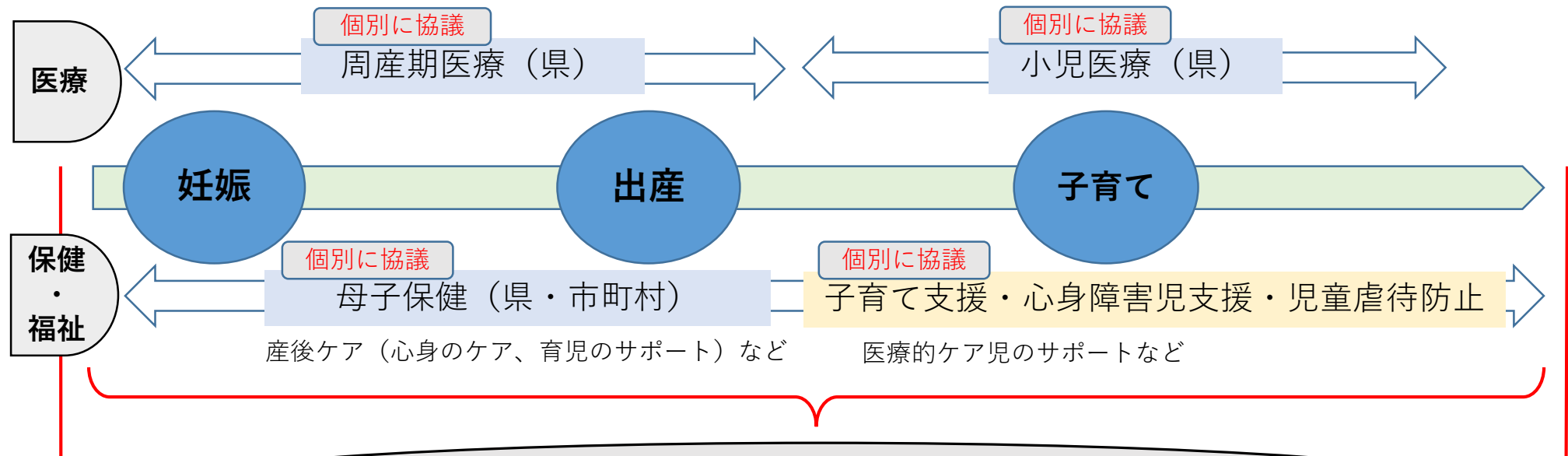
※その他、新生児聴覚検査や新生児スクリーニング検査など、特定の議論を行うための協議会も存在



これらの協議会では、それぞれの分野に特化した議論が行われてきた。

連絡協議会での意見交換について

- 妊娠から出産・子育てまでのライフステージをみると、「医療」と「保健・福祉」の両側面からの支援が必要である。その中において、「周産期医療」・「小児医療」・「母子保健」・「心身障害児支援」というように、行政での支援が各パートごとに分かれており、母子に対する切れ目のないサポートを円滑に行うことに支障があった。



～効果的・効率的な一連の支援体制が求められている～

意見交換

- これまで、各パートにおける協議会などで、それぞれ個別に協議・検討されてきたが、本協議会での意見交換は、既存の協議会の枠を超えて、情報・課題の共有を図る必要があるものとし、「県の関係課がまたがるもの」、「県だけではなく、市町村とともに検討が必要なもの」、「保健・医療・福祉の垣根を越えた議論が必要なもの」、「分野が異なる委員で構成する本協議会での意見交換により、より有意義な検討が期待できるもの」などとする。

連絡協議会・地域協議会の設置について

【趣旨】

- ◎既存の協議会の枠にとどまらない課題等に対応するため、妊娠から出産・子育てまでをサポートできる部局横断型の連絡協議会を設置する。
- ◎保健・医療・福祉分野の関係団体、医療機関等から幅広く協議会のメンバーを選任する。
- ◎保健・医療・福祉分野における多職種の幅広い関係者と協働し、将来を見据えた持続的な医療提供体制等の構築に向けて、情報・課題の共有、意見交換を行うための連絡協議会とする。
- ◎特定の地域課題に集中して取り組むための地域協議会を設置し、効果的な取組については、横展開を図る。

【運営体制】

- ①おかやま妊娠・出産・子育て安心サポート連絡協議会
 - ・年2回程度、対面での会議を開催する。
 - ・妊娠から出産・子育てまでの様々な情報・課題の共有、意見交換を行う。
 - ・本会において、実務者レベルでの調査・検討などの必要が生じた場合は、課題に応じたWGを設置する。
- ②地域協議会（令和6年度：井笠地域）
 - ・特定の地域課題に集中して取り組むための地域協議会を設置し、効果的な取組については横展開を図る。

おかやま妊娠・出産・子育て安心サポート連絡協議会について

★既存の協議会と連携・協力しながら、妊娠から出産・子育てまでをサポート

<保健医療部>

- 岡山県周産期医療協議会
- 岡山県小児医療協議会
- 岡山県小児保健協会
- 岡山県新生児聴覚検査事業推進協議会
- 岡山拡大新生児スクリーニング推進協会など

<子ども・福祉部>

- 子ども・子育て会議
- 自立支援協議会など

おかやま妊娠・出産・子育て 安心サポート連絡協議会

連携・協力

連携・協力

情報・課題の共有、意見交換

委任

庁内各課、関係委員によるWG
(※必要に応じて開催)

運営事務局
(医療推進課)

地域協議会

- ・特定の地域において、特に緊急性の高い課題に集中的に取り組む
- ・保健所、市町村及び医療関係者等で構成

(井笠地域)

少子化社会に対応する地域モデル構築

- ・地域課題に応じた事業展開(2年間)

他地域へ横展開

～ライフステージごとの保健・医療・福祉の諸課題に取り組む～

妊娠から出産・子育てまで

おかやま妊娠・出産・子育て安心サポート連絡協議会の構成員

区分		所属・職名	氏 名	備 考
保健・医療・福祉関係者	医療・福祉	岡山県医師会 常任理事	檜原 幸二	
	医療	岡山県周産期医療協議会 委員	増山 寿	
	医療	岡山県小児医療協議会 会長	塚原 宏一	
	医療	岡山県小児科医会 会長	横山 裕司	
	医療	岡山県看護協会 副会長	岸本 長代	
	医療	岡山県助産師会 会長	大井 伸子	
	医療・保健	岡山県産婦人科医会 理事	中塚 幹也	
	福祉	岡山県医療的ケア児支援センター 所長	村下 志保子	
	福祉	岡山県保育協議会 会長	服部 剛司	
	保健	岡山県愛育委員連合会 会長	岡崎 文代	
行政関係者	保健・医療	岡山県保健医療部 部長	梅木 和宣	
	福祉	岡山県子ども・福祉部 部長	片山 圭子	
	保健	岡山県保健所長会 会長	岩瀬 敏秀	
	保健	岡山市保健所 所長	松岡 宏明	
	保健	倉敷市保健所 所長	吉岡 明彦	
	保健	岡山県市町村保健師研究協議会 会長	林 智美	
合 計 16 名				

【事務局】

保健医療部 保健医療統括監

医療推進課 課長

健康推進課 課長

疾病感染症対策課 課長

子ども未来課 課長

子ども家庭課 課長

障害福祉課 課長

消防保安課 課長

※協議会の設置要綱に、必要に応じてメンバーを追加できる規定を設ける。

【連絡協議会の役割】

- 安心して妊娠・出産するための医療提供体制の維持に懸念が生じていることから、保健・医療・福祉分野における多職種の幅広い関係者と協働し、将来を見据えた持続的な医療提供体制等の構築に向けて、情報・課題の共有、意見交換を行う。
- 分娩にかかる資源が減少しつつあることなどの共通認識を持った上で、今ある資源の有効活用に向けて、関係者による協議を行う。

【地域協議会の役割】

- 妊娠、出産、産後ケアまでを見通した最適な分娩、健診機能の分化・連携の仕組みづくりや、助産師の活用拡大、産科医療機関の閉院等に伴う母子の支援体制等について検討を進める。

おかやママ安心サポート事業 全体スケジュール

区分	連絡協議会		地域協議会		補助事業 (井笠地域)	小児救急 電話相談	産後ケア事業 実態調査	新生児聴覚検査機 器購入補助
4月	協議会、事務局メンバーの選	県協議会の位置付け、目的、行動計画の立案	協議会、事務局メンバーの選	地域協議会の位置付け、目的、行動計画の立案	交付要綱の作成	事業実施（委託）	委託内容の検討 地域連携会議メンバーの選	
5月	事務局会議の開催	事業内容の説明	保健所支所管内連絡会議の開催	事業内容の説明			市町村への協力依頼	
6月	協議会委員への就任依頼						公告・業者選定	協議会の開催 実施要綱、交付要綱の公表
7月	協議会委員の決定						契約締結 調査内容決定	事業計画提出依頼
8月	設立通知		協議会委員への就任依頼 設立通知			●出前講座等 企画調整	実態調査の実施	交付申請 交付決定
9月	第1回協議会開催	事業内容の説明 情報・課題の共有	第1回協議会開催	事業内容の説明 情報・課題の共有	※補助事業者へ 事業内容の説明 (9月～10月)	●出前講座等 開催地区調整 ●応答率評価		
10月		※必要に応じて、 WGの開催	事務局間で連携					
11月			第2回協議会開催 ※11月～12月	取組事項の状況報告 次年度に向けた協議	※補助事業者へ 交付決定 (11月～12月)	●出前講座開催等	調査結果集計、分析	
12月			事務局間で連携			●応答率評価	地域連携会議開催 ※各ブロック1回 ずつ	
1月	第2回協議会開催 ※1月	取組事項の状況報告 次年度に向けた協議						
2月			第3回協議会開催 ※2月～3月	取組事項の状況報告 次年度に向けた協議				
3月	次年度の準備	次年度スケジュール作成 次年度取組事項の整理	次年度の準備	次年度スケジュール作成 次年度取組事項の整理	補助金実績報告	●応答率評価		

おかやまママ安心サポート事業 事業計画

事業内容	目的・役割	R 6 年度	R 7 年度	R 8 年度
<p>おかやまママ安心サポート協議会運営事業</p> <p>(県全体の協議会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保健・医療・福祉分野における多職種の幅広い関係者と協働し、将来を見据えた持続的な医療提供体制等の構築に向けた検討、情報・課題の共有、意見交換 今ある資源の有効活用に向けた関係者による協議 	<p>・連絡協議会の設置・開催</p> <p>(予算：487千円)</p>		
<p>おかやまママ安心サポート地域モデル構築事業</p> <p>(モデル地域での取組)</p> <p>期間：2年間を想定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠、出産、産後ケアまでを見通した最適な分娩、健診機能の分化・連携の仕組みづくりや、助産師の活用拡大、産科医療機関の閉院等に伴う母子の支援体制等について検討 <p>【モデル地域】 R 6 年度・・・井笠地域（備中保健所井笠支所） ＜モデル地域選定の理由＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 急激な周産期医療の脆弱化が懸念されている。 市町の取組意欲がある。 モデル化が可能な医療資源（施設、人材）を有し、協働体制の構築が見込める。 	<p>・地域協議会の設置・開催</p> <p>・地域課題に応じた事業展開</p> <p>(予算：834千円)</p>	<p>(新たなモデル地区での取組開始)</p>	
<p>院内助産・助産師外来施設整備補助</p> <p>(基金：助産所等施設設備整備事業)</p>	<p>助産所、院内助産所又は助産師外来を開設しようとする施設の増改築・改修、医療機器の購入費、情報通信機器等の設備整備に要する初期経費の一部を支援</p>	<p>補助施設数：1施設（※R 7 年度から3施設）</p> <p>(予算：5,000千円)</p>		
<p>助産師能力活用拡大のための補助</p> <p>(県費)</p>	<p>助産所、院内助産所又は助産師外来等の開設や充実・強化、ニーズが増加する産後ケア等に対応するために新たな助産師を雇用した場合、人件費の一部を支援</p>	<p>補助施設数：2施設</p> <p>(予算：6,000千円)</p>		
<p>小児救急電話相談（#8000）及び家庭看護力強化事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小児科医と連携し、#8000の利用を促進 子どもの急な病気、けがへの対処方法等に関する知識の普及 保護者の不安解消 適切な救急医療の利用による医療現場の負担軽減 	<p>・小児救急電話相談（#8000）事業実施</p> <p>・#8000、適切な救急医療の利用、小児救急に関する情報サイト等の周知</p> <p>・家庭看護力向上のための研修会等の開催</p> <p>(予算：25,888千円)</p>		
<p>産後ケア事業の実態調査事業</p> <p>(健康推進課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 産後ケア事業について、県内産婦のニーズ、産科医療機関等の受け入れ体制、市町村の実施状況等の実態を把握するため調査・分析 調査結果に基づく、保健所・支所単位の地域における課題解決を図る。 	<p>・産後ケア事業の実態調査</p> <p>(調査対象：市町村、産婦、産科医療機関等)</p> <p>・地域連携会議の開催（保健所・支所単位）</p> <p>(予算：2,908千円)</p>		
<p>新生児聴覚検査機器購入補助事業</p> <p>(健康推進課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新生児の聴覚障害を早期に発見し、早期に適切な支援へ繋げる。 産科医療機関等を支援し、新生児聴覚検査の体制を整備する。 	<p>・産科医療機関等へ検査機器の購入</p> <p>費用を補助</p> <p>(予算：46,903千円)</p>		

【課題】

- 産婦人科や小児科の地域偏在や医師不足の課題に加え、少子化や医療人材不足、医師の高齢化等により閉院を余儀なくされる産科医療機関が生じている。また、医師の働き方改革等による影響が懸念されており、地域によって従来の周産期・小児医療の提供体制の維持ができなくなりつつある。
- ハイリスク妊産婦、産前産後のメンタルヘルスケアなど、多面的で切れ目のないサポートが求められている。
- 保健、医療、福祉分野の情報が散在しており、母子が必要とする情報や支援が行き届きにくい。



何が足りていないのか

連絡協議会・地域協議会を通じて、改めて課題の共有・共通認識を形成するとともに、一連のサポートを円滑に行える環境づくりが必要

今後どうすべきか

知恵を出し合う

関係者の理解と協力が必要

【第1回連絡協議会 議題（3）】

※①から⑤は、事前アンケートに基づき、議題を設定

※⑥は、事前アンケートにはなかった項目

①周産期医療体制について

②小児医療について

③産後ケア事業について

④子どもの成長支援について

⑤心身障害児支援について

⑥その他について

**事前アンケートを集約した資料は、
別添の資料②を参照**

岡山県内 分娩取扱施設の分布

令和6年 9月1日現在

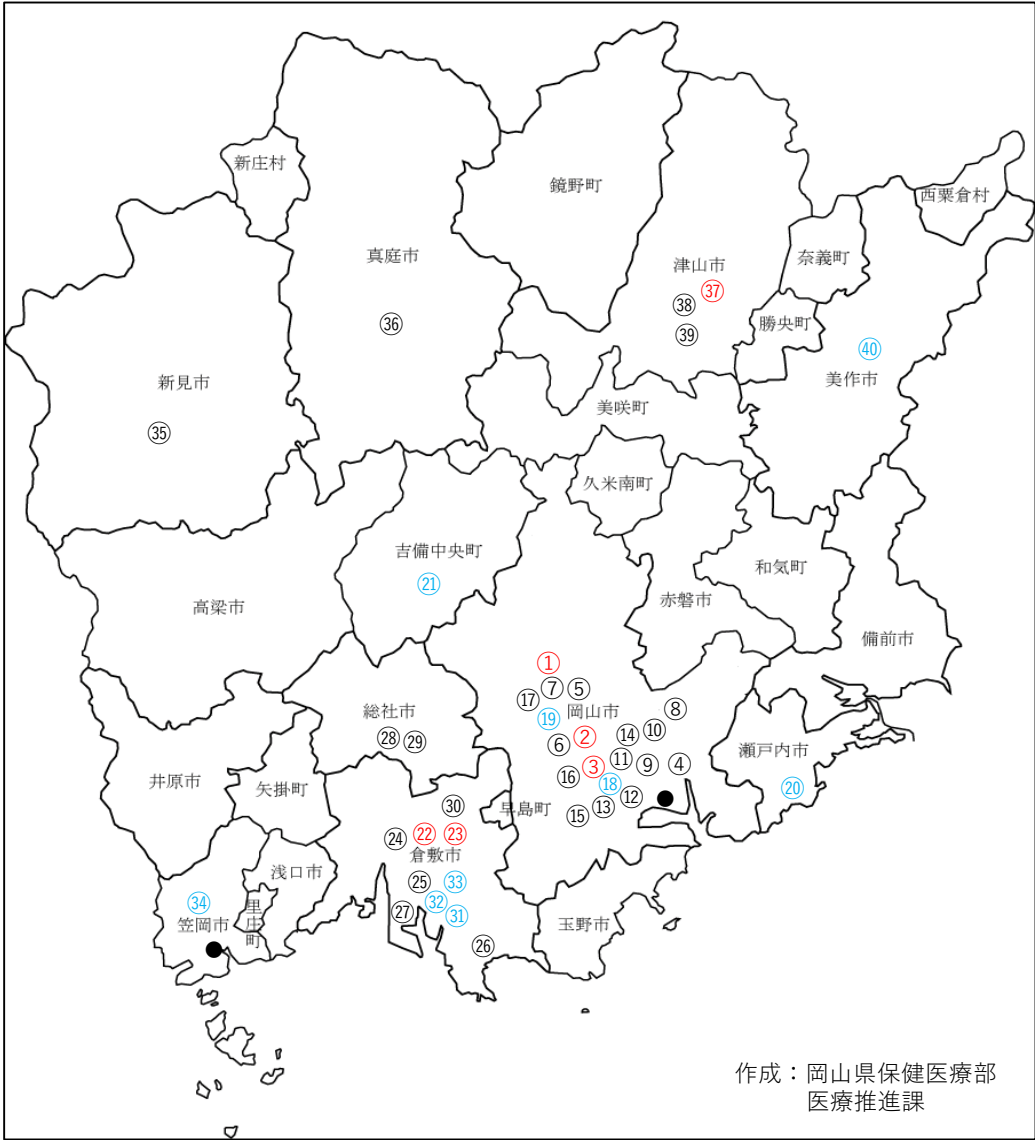
二次医療圏	種別	医療機関名
県南東部	周産期センター	① 国立病院機構岡山医療センター
		② 岡山大学病院
		③ 岡山赤十字病院
	病 院	④ 浮田病院
		⑤ 岡山済生会総合病院
		⑥ 岡山市立市民病院
		⑦ 岡山中央病院
		⑧ 丹羽病院
		⑨ ペリネイト母と子の病院
	診療所	⑩ 井上医院
		⑪ 岡山愛育クリニック
		⑫ 岡南産婦人科医院
		⑬ さわだレディスクリニック
		⑭ サン・クリニック
		⑮ 三宅医院
		⑯ ももレディースクリニック
		⑰ オークスマタニティクリニック
	助産所	⑱ 有理助産院
		⑲ マザーズホームななほし助産院
		⑳ おおまち助産院
		㉑ 木のぬくもり助産院

施設種別	施設数
周産期母子医療センター	6施設
産科病院	10施設
産科診療所	15施設
助産所	9施設
合 計	40施設

二次医療圏	種別	医療機関名
県南西部	周産期センター	㉒ 倉敷中央病院
		㉓ 川崎医科大学附属病院
	病 院	㉔ 赤松病院
		㉕ 倉敷成人病センター
		㉖ 倉敷市立市民病院
		㉗ 浅桐産婦人科
	診療所	㉘ くにとみクリニック
		㉙ 谷口レディスクリニック
		㉚ 山内産婦人科クリニック
		㉛ かねこ助産院
		㉜ さくらんぼ助産院
	助産所	㉝ たんぽぽ助産院
		㉞ くにさだ助産院
		㉟ 国際貢献大学校メディカルクリニック
	高梁新見 真庭 病院	㊱ 落合病院
	津山英田 周産期センター	㊲ 津山中央病院
		㊳ 赤堀クリニック
		㊴ 福田産婦人科
	津山英田 助産所	㊵ 美作みんなの助産院

【参考：直近の分娩取扱開始・閉院の状況】

	医療機関名	分娩取扱開始・閉院
●	橋本産婦人科医院	閉院(R5.12月末)
●	西井ウイメンズクリニック	閉院(R6.5月末)
⑲	マザーズホームななほし助産院	分娩取扱開始(R6.8月)
㉑	木のぬくもり助産院	分娩取扱開始(R6.4月)



作成：岡山県保健医療部
医療推進課

二次医療圏ごとの出生数と分娩件数の推移

全県

年	2017	2018	2019	2020	2021
出生数	14,910	14,485	13,695	13,521	13,107
分娩件数	15,086	15,184	14,167	13,845	13,574

真庭

年	2017	2018	2019	2020	2021
出生数	298	287	232	249	218
分娩件数	202	200	171	146	163

高梁・新見

年	2017	2018	2019	2020	2021
出生数	270	294	271	229	228
分娩件数	93	92	67	63	51

県南西部

年	2017	2018	2019	2020	2021
出生数	5,708	5,467	5,340	5,274	5,141
分娩件数	5,781	5,640	5,426	5,234	5,205

津山・英田保健医療圏

<分娩施設数：4>

津山・英田

年	2017	2018	2019	2020	2021
出生数	1,310	1,322	1,182	1,181	1,198
分娩件数	1,457	1,484	1,306	1,329	1,286

県南東部保健医療圏

<分娩施設数：19>

県南東部

年	2017	2018	2019	2020	2021
出生数	7,324	7,115	6,670	6,588	6,322
分娩件数	7,553	7,768	7,197	7,073	6,869

県南西部保健医療圏

<分娩施設数：13>

(出生数：厚生労働省「人口動態統計」)
(分娩件数：岡山県「周産期医療体制に係る調査」)